

## 学校図書館と学習活動

総務企画課 生涯学習推進室  
実務研修員 溝本 啓

### 1 はじめに

静岡県総合教育センター図書室（以下「センター図書室」という）は、総務企画課生涯学習推進室が管理・運営しており、静岡県図書館協会にも専門図書館として加盟している。この1年間の研修を通して、様々な図書室業務の補助をしながら、公共図書館だけでなく、学校図書館についての理解も深めることができた。また、これまで学校図書館はいつも身近にあったものの、自身の活用が不十分であったと改めて感じた。さらに、自分自身の今後の教科指導に、学校図書館が活用できると強く思うようになった。

本稿ではこの1年間で公立図書館及び学校図書館について学んだことを取り上げながら、学校図書館をどのように学校の授業に活用できるのかまとめ、高等学校における学校図書館を活用した地歴公民科の授業についての具体的な提案をしたい。

### 2 公共図書館全般について

#### (1) 図書館について

今回の実務研修では、「図書館とはどのような施設なのか」ということから学ぶことができた。県立中央図書館主催の「図書館基礎研修」では、公共図書館についての理解を深めることができ、その中で特に印象的だったのは、ランガナタン<sup>1</sup>の提唱した図書館学の五法則だった。「①図書は利用するためのもの、②いずれの読者にも全てその人の図書を、③いずれの図書にも全てその読者を、④図書館利用者の時間を節約せよ、⑤図書館は成長する有機体である」という五法則である。図書館の果たす役割とその重要性が、非常にシンプルにまとめられており、図書館を見る目も大いに変わった。

#### (2) レファレンスについて

また、県立中央図書館主催の「レファレンス基礎研修」にも参加した。レファレンスとは図書館の利用者の調べ物を図書館員が援助することをいう。本の所在場所を教えることも、事実調査の依頼（例：「富士山の年間の登山者数を知りたい」など）について回答することも含まれる。正確を期すため、自分の知識だけで対応するのではなく、必ず百科事典や新聞記事など参考図書で裏付けをとらなくてはならない。

レファレンスは図書館で行われる業務だが、学校における生徒の学習活動と無関係ではない。信頼できる適切な資料を見定めて選択することや、それをもとに正しく調査を進めることなどはあらゆる学習の基礎として求められることである。知りたいことを明確にし、適切な資料を見つけ出すことができ、正しく読み解けるようになることが学びの基本にな

---

<sup>1</sup> ランガナタン (Shiyali Ramanrita Ranganathan 1892-1972) インドの数学者・図書館学者。マドラス大学の司書を務めた。図書分類法の一つのコロン分類法も提唱した。(『世界大百科事典』, 平凡社)

る。また、知り得たことを他者に伝える際にも、根拠を適切かつ明確に示すことが重要である。学び方・伝え方を学ぶことと基礎的なレファレンス能力には重なり合う部分が多い。

百科事典など図書資料の強みについてもよく理解することができた。インターネットは検索しやすく最新の動向も調べることができるが、匿名性が高く、改変されても分かりにくいという欠点もある。図書資料は著者名など責任者が明記されており、秘かに書き換えられる恐れも限りなく少ない。「同じ調べものをする時に、同じような情報を得る結果になるのなら、手間をなるべく省き短時間でできるほうがよい。」と、つい考えがちであるが、効率のよさだけに惑わされてはいけないことを実感した。自分の触れる情報の正確性について、揺るぎない確信が得られるようチェックできることは、図書資料が持つ大きな強みである。参考とした資料の確実さは、学習の土台の確かさとなるものである。しっかりとした図書資料を活用できることが、確かな学習につながることになる。

### 3 学校図書館を活用した授業について

#### (1)生涯学習推進室が行っている研究の概要

生涯学習推進室では学校図書館を活用した授業について研究を行っている。今年度の研究テーマは「思考力・判断力・表現力等を育む学校図書館活用の在り方に関する研究」であり、三年計画の一年目である。県内の小中学校4校の教員4名を研究協力員に任命し、学校図書館研究担当者会を開くとともに、研究協力員相互の授業を参観し事後協議を行っている。また、この研究は研修と密接に連携しており、研究協力員は全員10月の「学校図書館活用で授業改善研修」に参加している。今年度の日程と授業の主な内容は次の通りであり、その全てを参観することができた。

#### 【今年度の学校図書館研究担当者会の流れ】

日時	内容	会場
6月24日(火)	第1回学校図書館研究担当者会	総合教育センター
8月1日(金)	第2回学校図書館研究担当者会 (指導案の検討、研究顧問による指導・助言) ※研究顧問は静岡文化芸術大学・常葉大学講師林容子氏	総合教育センター
9月24日(水)	研究授業(中学校3年社会科の授業)と事後協議 授業内容:日本国憲法の基本的人権について、グループに分かれて各自調べ学習を行い、意見を発表	富士市立元吉原中学校
10月29日(水)	研究授業(中学校3年国語科の授業)と事後協議 授業内容:万葉集、古今集、新古今和歌集の歌について、グループに分かれて、図書館の資料等を参考しながら各自調べ学習を行い、意見を発表	磐田市立神明中学校
10月31日(金)	第3回学校図書館研究担当者会 (センター主催研修「学校図書館活用で授業改善」)	島田市立島田第五小学校

11月7日(金)	研究授業（小学校5年国語科の授業）と事後協議 授業内容：説明文「千年の釘にいどむ」の並行読書として、グループに分かれて学校図書館等にある伝記を読み、自分の意見を発表	袋井市立袋井南小学校
12月3日(水)	研究授業（小学校3年国語科の授業）と事後協議 授業内容：物語「三年とうげ」の並行読書として、グループに分かれて学校図書館等にある世界各地の民話の絵本を読み、自分の意見を発表	菊川市立小笠北小学校
2月10日(火)	センターにて第4回学校図書館研究担当者会 (今年度の活動の振り返り)	総合教育センター

## (2) 授業に学校図書館を活用する意義について

小学校学習指導要領では、学校図書館の活用について、「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主眼的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること。」と定められている。また、同解説では「今回の改訂においては児童の思考力・判断力・表現力等をはぐくむ観点から、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な児童の言語活動の充実を図ることとしている。」とされている。さらに、読書については、「児童の知的活動を増進し、人間形成や情操を養う上で重要であり、児童の望ましい読書習慣の形成を図るため、学校の教育活動全体を通じ、多様な指導の展開を図ることが大切」であるともされている〔小学校学習指導要領解説 総則編〕。なお、中学校・高等学校もほぼ同様の記述となっている。

こうした内容も踏まえながら、学校図書館を活用した授業の効果について簡単にまとめておきたい。

### ア 読書機会の増加

図書館という場そのものに児童生徒が親しむことによって、本に触れる機会が得られる。様々な分野の本が豊富にある図書館に馴染むことで、読書の面白さを知り、読書習慣が身につくことも多い。

### イ 図書資料を活用するスキル

図書館ではさまざまな図書資料を同時に活用することができる。児童生徒は数多くの図書から、記述の確実性などを確かめながら適切なものを選び出して活用することができる。また、図書資料には新聞も含まれる。新聞を活用した教育であるN I E活動の場として図書館を使うこともできる。

### ウ 学習内容のさらなる深まり

教科書や副読本などの通常の授業で用いられる教材に加え、図書資料を用いることにより多様な記述内容や図版などに触れることができ、学習内容をより深めることができる。

### (3)授業の計画・構想について

実際に授業実践の構想を考える中で「その授業で学校図書館を活用する理由と目的は何か」を明確にさせることが重要である。上述のように図書館活用による効用は多くあるが、ただ学校図書館を使うだけでは十分な成果は得られない。図書資料を活用する意義を児童生徒がはっきり理解していなければ、学習意欲を最大限引き出すことにはならない。

あくまで、授業で本来果たすべき目標は何かが一番重要な事柄であり、そのために授業のよりよい進め方を考えるうえで、学校図書館をどのように有効に利用するかということである。一例をあげると、9月の中学校3年社会科の授業では、「資料を明示し、それを根拠にして自分の意見を述べるができるようにする」ことが単元の目標に据えられた。そのために図書館資料を活用するという順を追って、授業構想が立てられている。

### (4)図書資料の準備について

ひとくちに授業に活用できる本といっても、絵本、児童向け図書、一般書、専門書、図鑑、雑誌など多様である。また、資料は本だけではない。新聞、CD、DVD、地形図なども大いに活用できる。このように多様な資料があることを念頭に、取捨選択をしなければならない。

今回のどの参観授業でも同一図書が複数冊必要であったため、近隣の公共図書館からの団体貸出を利用していた。基本的に公共図書館では同じ図書を2冊以上所蔵する複本を避けることが多いため、複数の図書館を同時に利用して必要な冊数を揃えることが多かった。教科・科目や授業のねらいをくみ取って選書することや、学年段階による児童生徒の読解力の差を見定めること、学年やクラスの特徴や個々の児童生徒の興味・関心を把握することなどが重要となる。

### (5)学校図書館活用の計画について

このように、図書館の資料を活用した授業を行うには、ある程度のまとまった準備作業と準備期間が必要となる。それとともに学校全体での調整をしておくことが欠かせない。そのために小・中学校では授業活用を含めた年間の図書館計画を年度当初にとりまとめている学校も多い。高校での現状を考えると、「わざわざ年間計画までつくるのも大仰すぎるのではないか」とか、「とりまとめる意義が感じられない」となる場合もあるかもしれないが、年間計画表を作成することにより、新たな図書館活用を図る動きが生まれやすくなるのではないかと感じた。

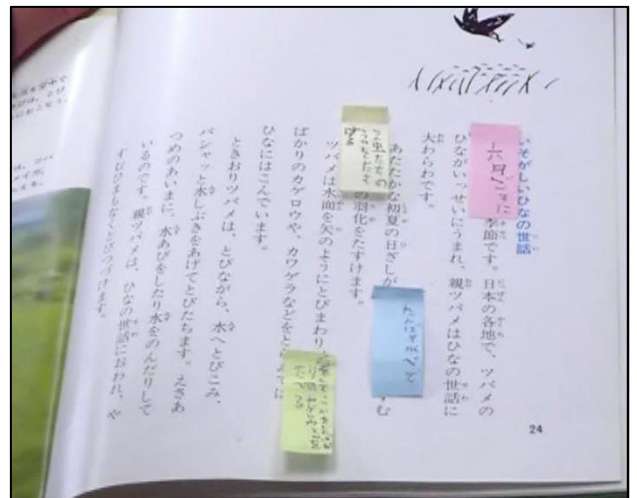
校内での連携を進めるために、図書館活用学習の記録をまとめることも非常に有効である。本研修において視察した金谷高校では、どのように学校図書館を用いたかについて、授業者による「記録シート」を活用していた。こうした「記録シート」は次年度に同様の授業を行う時の参考にもなり、図書リストの改善にも役立つとともに、他教科の授業の参考になる点も多い。事例を共有することでさらなる学校図書館の授業活用にもつながることがよく分かった。以下は、金谷高校の様式を参考に作成したシート（案）である。

図書館活用の事例メモ	
授業者（                    ）	授業日（    ）月（    ）日
科目（                    ）	クラス（                    ）
どのように図書館を使いましたか？	
使用した図書の本名(主なものだけでもかまいません)	

※金谷高校の小林教諭作成のものを参考にした

(6) 図書資料の使い方について

図書館資料を活用した授業で多く利用されていたのが「付箋紙」だった。右の写真のように気づきや疑問点などを付箋に書いてどんどん貼りつけ、あとでまとめるという学習活動の様子が多く見られた。「印象に残ったところ」「気づき」「今日の授業のテーマに関連するところ」「自分の感想」など、書き込む内容に応じて付箋紙の色を区別して使っていた例もあった。



【付箋紙を活用した例】

(7) レポートのまとめ方について

レポート作成について、前述の中学校3年社会科の授業では、レポートの評価基準についても事前に詳細に示されていた。以下は生徒に配布された評価基準の表である。この評価基準のポイント

を頭に入れながら生徒は調べ学習を行うため、参考資料の記述をただ書写したレポートにはならない。図書資料の意味する内容を考えながら読み取りが行われていることと、生徒の思考の様子をしっかりとどって評価できることがよく分かった。児童生徒にどのように課題を提示して取り組ませるかが非常に重要であることが改めて実感できた。

【レポート評価基準】	
S	テーマに対する調べ学習で、複数の資料を活用し情報カードに基本的人権が対立している双方の立場を「引用」「要約」「意見」を区別してそれぞれ書かれている。レポートの内容は調べた結果がまとめられており、 <u>対立する意見を尊重しながら自分の意見を、複数の憲法や法律などの資料を根拠として多面的かつ論理的に書かれている。</u> 「タイトル」「目次」「はじめに」「本文」「まとめ」「参考文献」がそろって書かれている。
A	テーマに対する調べ学習で、複数の資料を活用し情報カードに基本的人権が対立している双方の立場を「引用」「要約」「意見」を区別してそれぞれ書かれている。レポートの内容は調べた結果がまとめられており、それに対する自分の意見が <u>憲法や法律などの資料を根拠として書かれている。</u> 「タイトル」「目次」「はじめに」「本文」「まとめ」「参考文献」がそろって書かれている。
B	テーマに対する調べ学習で、情報カードに基本的人権が対立している <u>双方の立場から記入</u> できている。レポートの内容は調べた結果がまとめられており、それに対する <u>自分の意見が書かれている。</u> 「タイトル」「目次」「はじめに」「本文」「まとめ」「参考文献」がそろって書かれている。
C	テーマに対する調べ学習で、 <u>情報カードに基本的人権が対立している一つの立場から記入</u> ができている。レポートの内容は調べた結果は書いてあるが、自分の意見が書かれていない。
D	テーマに対する調べが不十分で、情報カードに記入が十分にできていない。レポートが完成できていない（または提出されていない）。

#### 4 高等学校の授業での学校図書館活用

次に、高等学校の授業での図書館活用について考えたい。図書館を授業に活用する意義は3(2)で述べた内容と基本的には共通するが、高等学校での図書館活用授業における留意点について、以下に簡単にまとめたい。

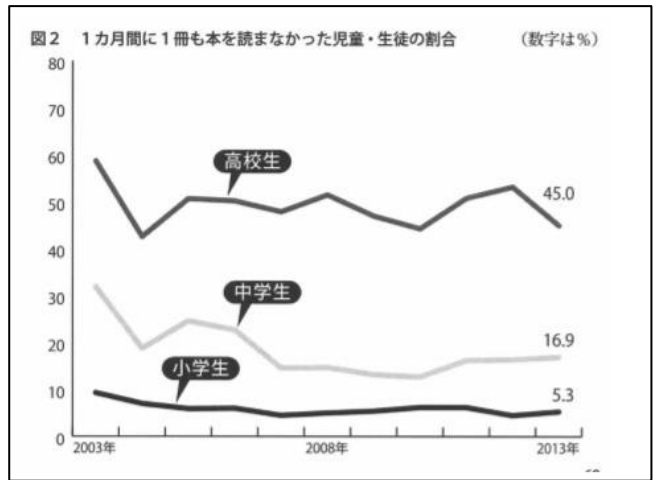
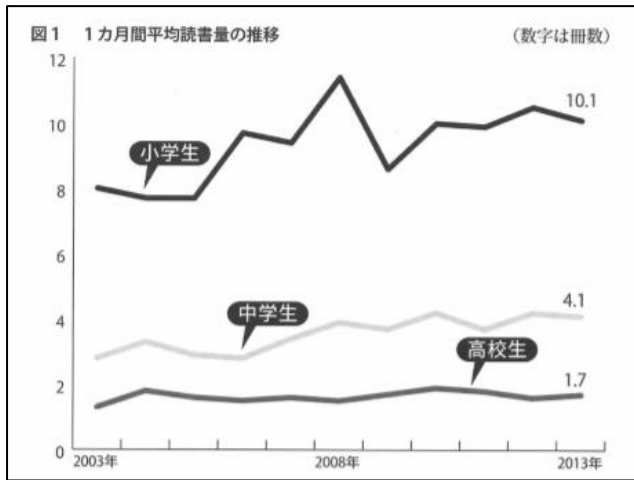
##### (1) 学校読書調査（全国）から

###### ア 読書機会について

高等学校において、生徒に読書機会を増やす意義はどの程度あるだろうか。以下の図1～図3は毎日新聞社が実施した学校読書調査のデータである。図1は1か月間の平均読書量を冊数で測ったグラフであり、図2は1か月間に1冊も本を読まなかった児童・生徒の割合（不読率）を示したグラフである。小学校から高等学校へ学校段階が上がるにつれ、読書活動から離れる児童・生徒が多いことがうかがえる。

高等学校は社会へ飛び立つ準備段階であり、自ら必要な情報を得たり、思考を深めたり、視野を広げたりすることにつながる読書は重要である。また、高等学校学習指導要領にも「読書は知的活動を増進し、人間形成や情操を養う上で重要であり、望ましい読書習慣の形成を図るため、学校の教育活動全体を通じ、多様な指導の展開を図ることが大切である」と示されている〔高等学校学習指導要領解説 総則編（小学校・

中学校もほぼ同様の記述]。高等学校においても、生徒が多くの本にふれる機会を多く持つことが非常に重要であるといえる。



### イ 図書資料の活用について

図3は、図鑑や事典で調べることについて質問した項目の集計結果である。この調査結果からは、学校段階が上がるにつれて参考資料を使うことへの抵抗感が増してしまっている状況が読み取れる。小中学校ですでに参考資料の活用法について学んでいる生徒に対して、さらに活用の方法や意義について学ばせる意義は非常に大きいといえる。

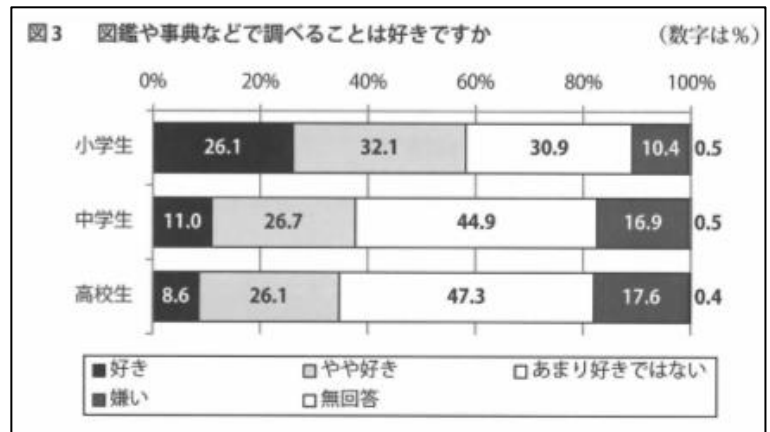


図1～3は毎日新聞社 2014年版読書世論調査に基づく

また、大学や専門学校の研究・学習では、参考資料の活用は必須であり、直接に文献などの一次資料に当たることも多くなる。事典類の参考資料の長所を知り、活用する技術を確実に身につけることは、進学先における研究活動等でも非常に重要である。

### ウ 学校図書館と生涯学習

また、社会への入り口の段階である高等学校において、生涯にわたる学習を見据えて学ぶ楽しさと学ぶ方法を生徒が理解することはとても重要である。図書館は生涯学習の主要な拠点の一つであり、学校教育とその後の生涯にわたる学習をつなぐ働きとしての学校図書館を活用した学習活動の意義は大きい。

### (2) 授業の計画・構想について

授業構想を立てる留意点は、2(3)で述べた内容と基本的には同一である。授業の目標が第一にあり、図書館活用はその目標を具現化するための手段である。並行読書や調べ学習における活用は高等学校の授業においても小中学校と同様に有効であると思われる。

本稿では、高等学校地理Bの「現代世界の諸地域・東南アジア」の授業において、学校図書館の図書資料を用いて調べ学習を行う授業を構想した。調べ学習で1時間、発表で1時間の計2時間の授業計画である。授業構想案・参考図書リスト・ワークシート案を本稿末に付した。この案では既習の学習内容を踏まえながら東南アジアの地誌全般についての理解を深めることとともに、図書館の図書資料の活用を通して、様々な資料を正確に読み取りながら、適切に引用・要約する力をつけることを目標としている。用意する資料の冊数や種類、資料の配架の仕方などは生徒の資料活用能力等に応じて変わる。学習活動の内容や手順を明確にして、授業時の指示を出すことが肝要である。

他の図書館からの相互貸借・団体貸出を利用しようとする、準備作業にかかる負担が大きくなるため、年間を通じて一人の教員が頻繁にこのような授業を実践することは難しいと思われる。しかし、たとえ一度だけの実践でも図書館活用の意義は大きい。学校全体で、多くの教科の授業で図書館を活用することが理想である。

## 5 おわりに

本稿で述べた要点について、補足も加えながら振り返りたい。

### (1) 図書館を活用する意義

図書館を活用して授業を行うことで、図書に触れる習慣と図書館活用の基本的な技術を体得することができ、発展的な学習につながる。また、百科事典などの参考図書の長所と活用法を知ることは、生涯にわたる学習の基盤を形成する上で大変重要である。

### (2) すべての教職員・児童生徒の手による学校図書館

本への興味・関心の程度に関わらず、学校生活を送る全ての教職員と児童生徒にとって学校図書館が馴染み深い場所であることが理想的である。図書館を活用した授業も、どの教科・科目においても行うことが可能であり、教科を越えた活用こそ重要である。

### (3) 図書館活用は生涯学習の基礎

複雑で変化の激しい現代社会におけるさまざまな問題を解決する上で、図書館はその拠点となる。児童生徒が図書館活用で培うことのできる力は大きなものであり、欠かせない力である。この力は、必要な情報を収集し取捨選択してよりよい知識を得るだけでなく、様々な図書に触れることで得た知識から自らの思考を深め、よりよく生きていく糧とするという「生きる力」につながるものである。今後も学校での学校図書館活用の実践を通して、生徒にこのような「生きる力」をつける教育を考えていきたい。

## 参考文献

- ・堀川照代『新訂 学習指導と学校図書館』NHK出版、2010年
- ・山本純一『第二版 学習指導と学校図書館』学文社、2008年
- ・小川三和子『教科学習に活用する学校図書館』全国学校図書館協議会、2010年
- ・押上武文『子どもの学力を高める学校図書館の教科別活用法』学事出版、2004年
- ・赤木かん子『調べ学習の基礎の基礎』ポプラ社、2006年
- ・赤木かん子『調べる力を育てる授業!』ポプラ社、2007年
- ・『2014年版読書世論調査 第59回学校読書調査』毎日新聞社、2014年



事例：東南アジアの国々について調べる

教科（地理歴史）科目（地理B）

<指導目標>

- ①東南アジアの地誌に対する理解を深める。
- ②参考図書を適切に選択・引用・要約しながら調べ学習を進める。
- ③調べた内容を適切に要約しながらまとめ、分かりやすく発表する。

<事前の資料準備等>

- ①学校図書館から参考図書を探す。
- ②足りない資料については、公共図書館からの団体貸出で補う。
- ③図書の実物を見て、参考資料として使えるかどうかをチェック。

<授業の流れ>

1時間目（調べ学習）

指導過程	学習活動	指導上の留意点
導入	5人×8グループに生徒を分ける。  各グループで担当する大テーマの割り当てを決める。 (大テーマは「東南アジアの自然」「東南アジアの農業」「東南アジアの文化」「東南アジアの歴史」の4つ) ※1つの大テーマを2グループが担当  ワークシートを配布する。 グループごとに小テーマの担当を決める。  同じ小テーマを担当する2名でペアを組む。	参考資料の出典を明記するよう指示
展開	参考図書をもとに、ワークシート課題（東南アジア各国の地誌について調べる）をペアで進める。 参考箇所には付箋紙を貼りつける (関連箇所は青、引用箇所は赤の付箋)	参考資料の主なものは別置して取りやすいようにしておく。  巡視しながら、参考図書の使い方や課題の進め方などを補助。
まとめ	ペアごとにワークシートをまとめる。	

## 2時間目（発表）

指導過程	学習活動	指導上の留意点
導入	本時の進行予定について説明。 (グループ内発表とグループのまとめは20分、クラス発表は1グループ5分程度)	
展開①	各グループごとに、それぞれのグループ員が調べた小テーマについてグループ内発表を行う。 各グループ員の発表を聞いて勉強になった点や疑問点などを述べ合い、グループでまとめておく。	各グループ内で、質疑応答などの意見交換ができるようにする。時間内にうまく全員が発表できそうか、進行の様子を見る。
展開②	4グループによるクラス内発表を行う。 発表を聞く生徒は、感想・疑問点をワークシートにまとめる。	
まとめ	2時間の学習活動を振り返り、ワークシートを回収。	

## ◎参考図書リスト

書名	出版社	著者	発行年
メコン・黄金水道をゆく	集英社	椎名 誠	2004
メコン街道 母なる大河 4200 キロを往く	水曜社	鎌沢 久也	2004
池上彰のニュースに登場する国ぐにのかけとひかり 1	さ・え・ら書房	池上 彰 他	2008
東南アジアを知る事典	平凡社	桃木 至朗 他	2008
ぼくが歩いた東南アジアー島と海と森と	コモンズ	村井吉敬	2009
世界の食事おもしろ図鑑	PHP 研究所	森枝 卓士	2009
世界の地理 国別大図解 アジアの国々 1	学研教育出版	井田 仁康	2010
図説大百科 世界の地理〈21〉東南アジア	朝倉書店	田辺 裕	2010
東南アジアの大都市圏 拡大する地域統合	古今書院	生田 真人	2011
世界がみえる地図の絵本	あすなる書房	ブライアン・デルフ	2011
雑穀からみる東南アジア	小峰書店	落合 雪野 他	2012
アジアの辺境に学ぶ幸福の質	亜紀書房	瀬川 正仁	2012
小学生のためのまるわかり世界地図帳	メイツ出版	学習地理研究会	2012
ASEAN は日本経済をどう変えるのか	NHK 出版	西濱 徹	2014
世界大百科事典（全 33 冊）	平凡社		2011
日本大百科全書（全 27 冊）	小学館		1997

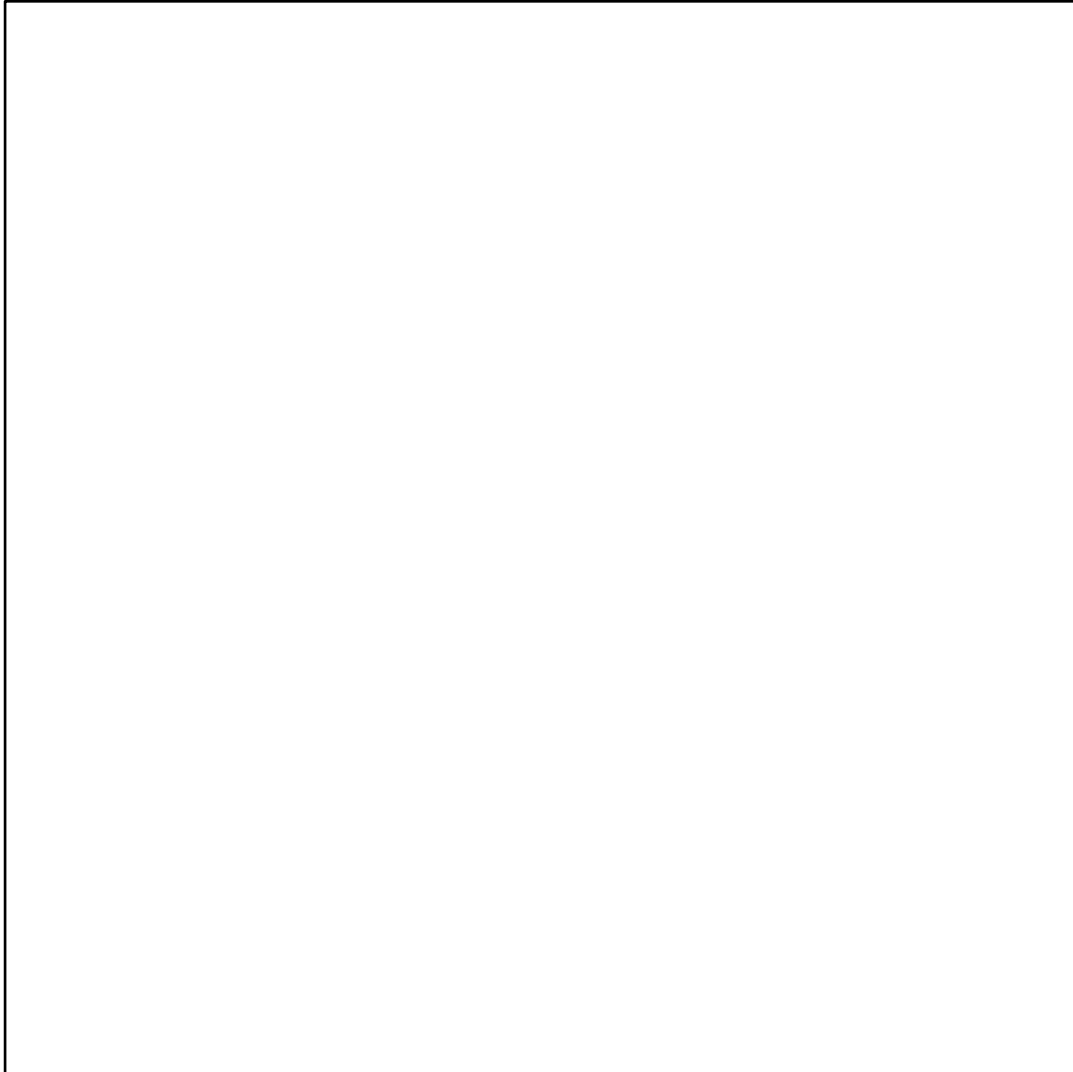
地球の歩き方「東南アジア」	ダイヤモンド社		2014
地球の歩き方「タイ」	ダイヤモンド社		2014
地球の歩き方「マレーシア・ブルネイ」	ダイヤモンド社		2014
地球の歩き方「シンガポール」	ダイヤモンド社		2014
地球の歩き方「ベトナム」	ダイヤモンド社		2014
地球の歩き方「ミャンマー（ビルマ）」	ダイヤモンド社		2014
地球の歩き方「インドネシア」	ダイヤモンド社		2014
地球の歩き方「フィリピン」	ダイヤモンド社		2014
世界の国々1 アジア州 1	帝国書院		2012

**地理B ワークシートプリント 東南アジアの地誌について、図書資料で調べよう**

HRNO ( ) 氏名 ( )

**1班** …テーマ「東南アジアの自然」

・ワーク①（ペア学習）…テーマ「メコン川ってどんな川？」



・参考資料

書名	著者	出版社	発行年

(注意事項)

- ・参考資料の、「書名」「著者」「出版社」「発行年」を付記すること
- ・レポートの中に、少なくとも1つは地図を入れること